



OAGデータに見る 航空業界の現状と変化

OAGは1858年創業の航空スケジュールデータビジネスのバイオニア。信頼性の高い航空スケジュールデータ、運行状況データ、航空座席の需要・供給データを提供しており、世界中の多くの航空会社、空港、大手旅行会社から支持されている
https://www.oag.com/jp

アジア地域で著しい成長を続けるLCC FSCを急追、インドとインドネシアで逆転も

アジア地域でLCCによる座席供給シェアが急激に拡大しています。日本への乗り入れも活発化しているLCCの動向は、旅行業界の今後にも大きな影響を及ぼすことになりそうです。今号から随時、激動する航空業界の現状をOAGによるデータ分析で紹介していきます。

南アジアと東南アジアでは均衡状態に

OAGのスケジュール・アナライザーによると、2016年度におけるアジア地域でのLCC（ローコストキャリア）とフルサービスキャリア（FSC）の供給座席数は、LCCが4億1025万4681席で全体に占めるシェアは25%、FSCが12億5138万5786席で75%となっています。

近年、アジア地域におけるLCCの発展は、南アジアと東南アジアを中心に目覚ましい動きを見せており、南アジアと東南アジアでのLCCのシェアはそれぞれ46%と45%で、FSCとほぼ均衡するまでになりました。

さらに、LCCアライアンスの発足や、FSCによるLCCの設立、中長距離路線の増加といった事態も生じてきているため、数年後には、LCCのシェアがFSCのシェアを凌駕するまでになることも十分に予想される状況です。

一方、北東アジアでは、LCCのシェアが12%にとどまっているのに対し、FSCのシェアは88%に達して9割近い水準を維持しています。また、近年、中国を中心に航空座席総数が大きく伸びてきているものの、LCCの主戦場とも言える国内線と短距離国際線でも、既存のFSCによるオペレーション

ンが中心となっているケースが多く、LCCが本格的に台頭するまでには時間がかかりそうな見通しです。アジア全域で見ると、世界全体におけるLCCとFSCによる供給座席比率が、LCCの27%に対してFSCは73%となっていることから、アジア全域における25%対75%という状況は、

2016年度 エリア別座席数 (国際線のみ) (出典:OAGスケジュール・アナライザー)

エリア	LCC	FSC	合計	LCCシェア	FSCシェア
南アジア	91,841,168	106,214,404	198,055,572	46%	54%
東南アジア	199,462,827	245,697,019	445,159,846	45%	55%
北東アジア	118,135,640	883,447,710	1,001,583,350	12%	88%
中央アジア	815,046	16,026,653	16,841,699	5%	95%
アジア合計	410,254,681	1,251,385,786	1,661,640,467	25%	75%
グローバル合計	1,360,053,669	3,587,267,672	4,947,321,341	27%	73%

2016年度 国別座席数 (国際線のみ) (出典:OAGスケジュール・アナライザー)

国	LCC	FSC	合計	LCCシェア	FSCシェア
南アジア&東南アジア					
インド	88,058,164	72,537,865	160,596,029	54.80%	45.20%
インドネシア	72,814,653	72,145,806	144,960,459	50.20%	49.80%
マレーシア	28,843,861	31,991,430	60,835,291	47.40%	52.60%
タイ	41,282,640	48,397,150	89,679,790	46.00%	54.00%
南アジア&東南アジア					
韓国	21,045,350	50,776,343	71,821,693	29.30%	70.70%
日本	31,101,923	164,172,156	195,274,079	15.90%	84.10%
台湾	4,457,755	34,365,210	38,822,965	11.50%	88.50%
香港	4,380,057	39,022,605	43,402,662	10.10%	89.90%
中国	55,380,053	574,751,570	630,131,623	8.80%	91.20%

グローバルな傾向とほぼ連動する状況になってきていると言えそうです。
マレーシアなどで長距離路線にも進出

アジア域内におけるLCCの供給座席数を国別にみると、特に、インド、インドネシア、マレーシア、タイの4カ国でLCCの成長が目覚ましく、クアラルンプール/大阪/ホルルなどの長距離路線への進出も始まっています。

2016年度における4カ国でのLCCの供給座席シェアは、インドが54.8%、インドネシアが50.2%で、すでにFSCのシェアを上回っているほか、マレーシアが47.4%、タイが46%で、過半に迫る勢いを示しています。

北東アジアでは、韓国と日本でLCCが台頭し始めており、急速な成長は見込まれていないものの、今後着実に成長していく可能性が高いとみられます。

2016年度における韓国と日本でのLCCの座席供給シェアは、韓国が29.3%、日本が15.9%となっており、韓国はアジア地域全体のLCCシェアを上回るまでに拡大していますが、日本は10ポイント近く下回ったままとなっています。

中国では、LCCのシェアが8.8%で1割未満にとどまっております。ただFSCが中心となっており、まだまだFSCが中心として、すでに一部のLCCが韓国や台湾路線で便数の拡大を始めていることから、今後、国内における航空需要のさらなる増加に伴い、急成長が確実です。